

申29号 組合員一人1要求運動に基づく申し入れ交渉経過

ひがし労仙台地本は、春のたたかいで取り組んだ、一人一要求運動の取り組みについて申29号として申し入れを行っていましたが、8月31日に団体交渉を行ってきました。交渉の中では、これまで改善に至っている部分や、今後、改善される部分も確認できましたが、社会不安の中で従事する社員との意識の乖離に対立する部分もありました。ひがし労は今後も、現場の意見に耳を傾け、働く者の目線に立った運動を創り出していきます。

<共通>

1項、感染症対策として、感染リスクを軽減するために、車通勤の希望者には車での通勤を認めること。

<回答>現行通りの取り扱いとなる。

(組) 朝夕の通勤時間帯の列車では、感染リスクが非常に高く不安の声が出ている。車通勤を可能にすべきである。

(会) 通勤手段については決まりがある。職場によっては駐車場の問題も出てくる。

(組) 当然、駐車場がある職場等が前提であるが、密集空間よりも車での通勤の方が感染リスクはなくなるではないか。

(会) お客さまが利用しているのに、感染リスクがあるからと言って社員が利用しないのはどうなのか。仕事でもリスクはある。車だと事故を起こす可能性もある。

(組) リスクがある中で仕事をしているからこそ、少しでも不安を解消するのは必要である。

通勤時の不安を解消したいという社員の意見との乖離がある事に議論は平行線のまま対立！

2項、感染症対策として、車両の消毒を行うこと。また、消毒を行ったことが分かるように消毒日の記載をした用紙等を掲出すること。

<回答>車両の消毒についてはすでに実施しているところであるが、引き続き必要な対策は実施していく考えである。

(組) いつ消毒したとかの記載をすることは考えていないのか。現状として放送しないことに反応があったり消毒等を気にする方もいるため、お客さまに示す部分も必要なのではないか。

(会) 現在はそういったことはやっていないが、様々な声を受けて、必要な対策は実施していく。

3項、感染症対策として、高校毎の時差通学が実施されていたが、列車の増結については利用実態に合わない場面がある。第二波への対応に備え、学校と連携した対応を行うこと。

<回答>引き続き関係機関と連携し、増結等の必要な対応を行っていく考えである。

(組) 高校等の通学時間が通常とは変わっているために、お客さまの積み残し等も発生している。地区センターから高校への連携が足りないのではないか。やっている職場もある。こちらから働きかけるべき。

(会) 積み残しがあったことは理解している。その都度の急な増結は難しい部分があるが、そういった部分での連携はしっかりやっていく。